

境港市駐車場整備事業経営戦略

団 体 名 : 境 港 市

事 業 名 : 駐 車 場 事 業

策 定 日 : 令 和 6 年 3 月

計 画 期 間 : 令 和 6 年 度 ~ 令 和 15 年 度

1. 事業概要

(1)事業形態

法適（全部適用・一部適用）非適の区分	法非適	事業開始年月日	日ノ出駐車場 昭和49年
			境港駅前駐車場 平成19年
			大正町駐車場 平成19年
職 員 数	1人（兼務）	施 設 名	日ノ出駐車場
			境港駅前駐車場
			大正町駐車場
種 類	日ノ出駐車場 都市計画駐車場	構 造	日ノ出駐車場 広場式
	境港駅前駐車場 届出駐車場		境港駅前駐車場 広場式
	大正町駐車場 届出駐車場		大正町駐車場 広場式
立 地	日ノ出駐車場 その他（観光施設）	建設後（建替後）の 経 過 年 数	日ノ出駐車場 50年
	境港駅前駐車場 駅、その他（観光施設、フェリー乗り場）		境港駅前駐車場 17年
	大正町駐車場 駅、その他（観光施設、フェリー乗り場）		大正町駐車場 17年
駐 車 場 使 用 面 積	日ノ出駐車場 3,912.47㎡	収 容 台 数	日ノ出駐車場 127台
	境港駅前駐車場 6,272.56㎡		境港駅前駐車場 192台
	大正町駐車場 2,314.60㎡		大正町駐車場 58台
営 業 時 間	終日		
民 間 活 用 の 状 況	ア 民間委託	パーキングシステムの保守・警備、繁忙期における交通整理、除雪に関する業務を個別に民間委託している。	
	イ 指定管理者制度	なし	
	ウ PPP・PFI	なし	

(2)料金形態

一般駐車	利用時間帯、車種にかかわらず ・入場から1時間まで 30分ごとに100円 ・以降1時間ごとに100円を加算 ・24時間最大600円 ・回数券 6,000円(600円券×12枚)
定期駐車	1月につき4,000円
料金形態の考え方	近隣の民間駐車場とのバランスに配慮し、民業圧迫とならない料金設定とする。
料金改定年月日 (消費税のみの改定は含まない)	日ノ出駐車場 H19.4.1
	境港駅前駐車場 H19.4.1(新設)
	大正町駐車場 H19.4.1(新設)

(3)現在の経営状況

経営比較分析表を参照(P3~P5)

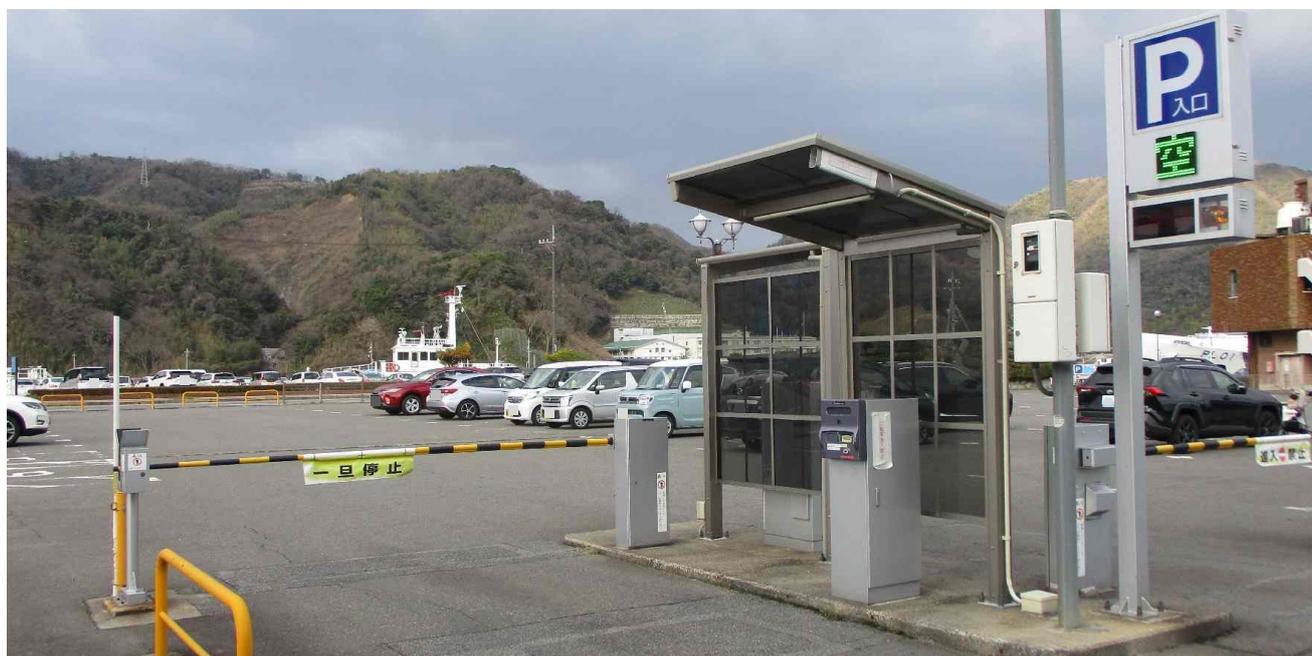
施設整備時(平成19年度)の起債の償還により、単年度収支、累積収支ともに赤字の状態が続いていたが、平成28年度に償還が完了したことに伴い、平成29年度以降は単年度収支が黒字に転換した。さらに、令和6年度には累積収支も黒字に転換することが見込まれている。

3か所ある市営駐車場は、いずれも収益的収支比率が100%を超過している。また、観光地の駐車場としての利用がメインのため、平日の利用が少なく、稼働率は類似施設の平均を大きく下回っているが、維持管理に要する費用が比較的少額であることから、売上高GOP比率は類似施設の平均を上回っているなど事業の収益性は高い状態で推移している。

借入や他会計からの繰り入れもなく、経営状況は比較的安定している。

【参考】経営比較分析表の指標

- ①収益的収支比率 : 料金収入などの収益的収支で、総費用に地方債償還金を加えた額をどれだけ賄えているかを示す割合…100%以上となっていることが必要
- ④売上高GOP比率 : 営業利益に対する営業総利益(粗利益)の割合…数値が高いことが望ましい
- ⑤EBITDA : 減価償却前営業利益(キャッシュの利益)…数値が高いことが望ましい
- ⑪稼働率 : 収容台数に対する一日当たりの平均駐車台数の割合…数値が高いことが望ましい



境港駅前駐車場

経営比較分析表（令和4年度決算）

鳥取県境港市 日ノ出駐車場

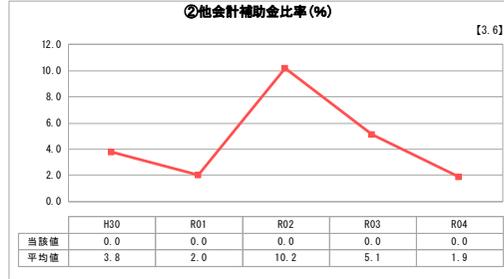
業務名	業務名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A3B1	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	都市計画駐車場 屈出駐車場	広場式	49	

立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m ²)
商業施設	無	3,912
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
127	200	無

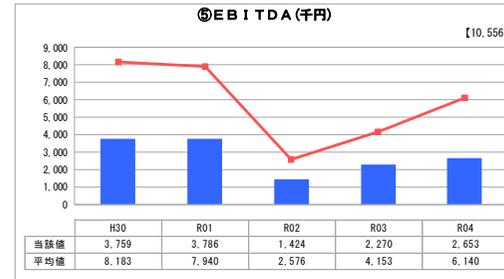
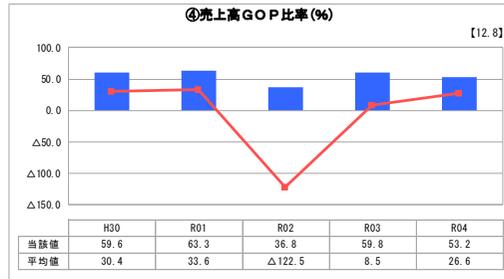
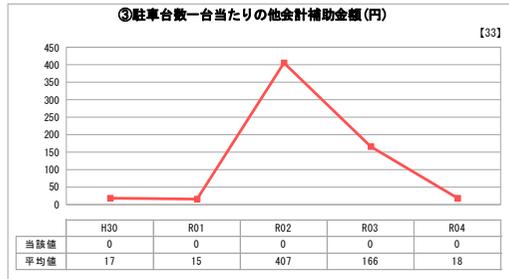
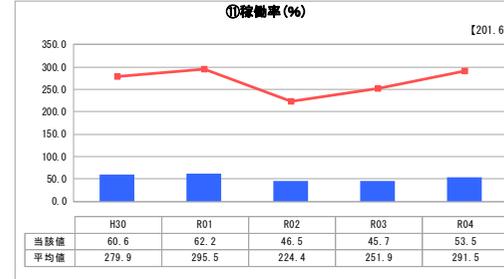
グラフ凡例

- 当該施設値（当該値）
- 類似施設平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

1. 収益等の状況



3. 利用の状況



分析欄

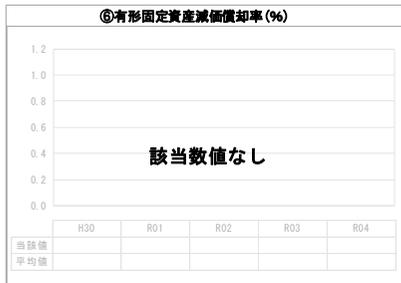
1. 収益等の状況について
 他会計からの繰り入れは無く、収益的収支は類似施設と比較すれば低めではあるが、常に100%を超え、200%前後で安定している。
 EBITDAについても、類似施設と比較すると低めではあるが、広場式の駐車場のため営業費用は少額であり、新型コロナ禍による移動制限等の影響下において類似施設の売上高GOPの平均値が大きく低下しマイナスに転じている中で、プラス状態をキープし続けるだけの収入が確保されており、経営は比較的安定している。

2. 資産等の状況について
 広場式の駐車場であり、今後の設備投資についても規模の大きなものは計画しておらず、パーキングシステムの更新や照明のLED化にかかる費用程度を見込んでいる。
 現在、企業債の残高は無く、今後も借入の予定は無い。

3. 利用の状況について
 観光地に隣接した駐車場であり、平日の利用客が少ないため稼働率は低めの水準で推移しているが、今後も安定した利用が見込まれる。
 新型コロナ禍による移動制限等の影響を受け、利用客数が大きく減少していたが、徐々に以前の状況に戻りつつある。

全体総括
 稼働率は比較的低い傾向にあり、また新型コロナ禍のため利用者数が減少していたが、現状において収益性は確保されている。
 当面、大きな設備投資の計画が無く、観光客による一定の駐車場利用が見込まれることから、安定した公営企業経営が可能と考えられる。
 なお、観光地に隣接した駐車場であり、観光施策と連携した整備・運営が必要であること、広場式の駐車場であり維持管理費は最小限となっていることから、民間への譲渡や包括的な民間活用には馴染まない。
 今後も黒字の継続が見込まれるが、維持管理費が過大とならないよう抑制に努める。

2. 資産等の状況

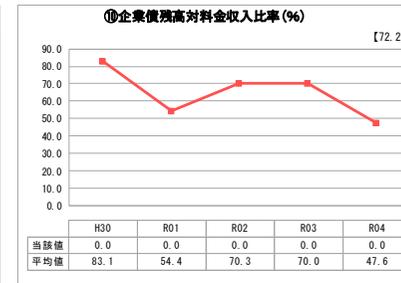
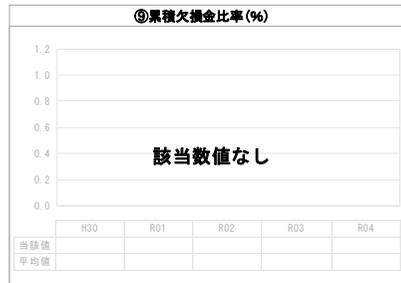


⑦敷地の地価(千円)

81,478

⑧設備投資見込額(千円)

3,564



経営比較分析表（令和4年度決算）

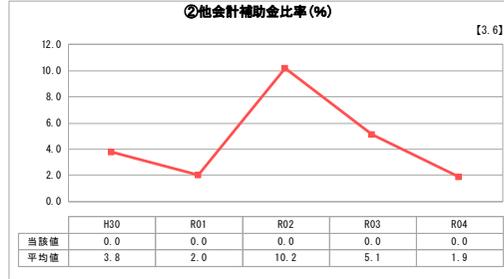
鳥取県境港市 境港駅前駐車場

業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A3B1	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	届出駐車場	広場式	16	

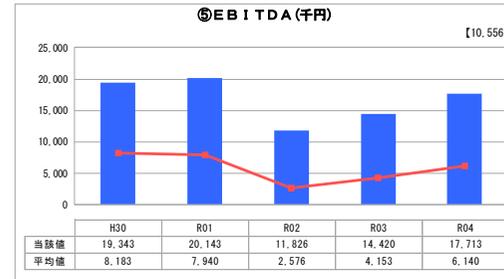
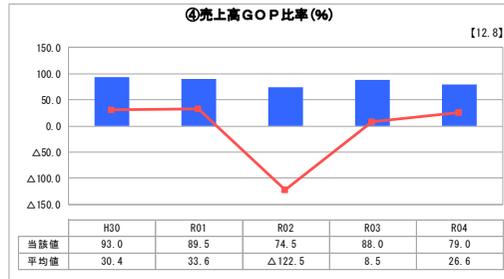
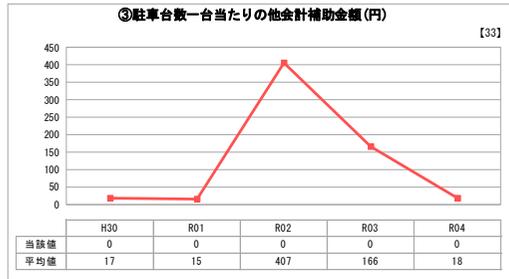
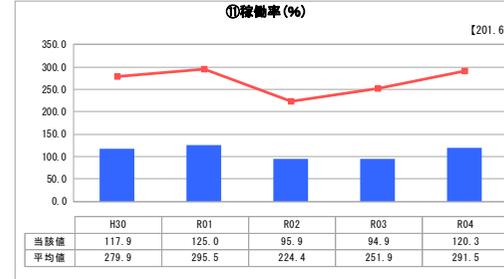
立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m ²)
駅	無	6,273
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
192	200	無

グラフ凡例	
■	当該施設値（当該値）
—	類似施設平均値（平均値）
【	令和4年度全国平均

1. 収益等の状況



3. 利用の状況



2. 資産等の状況

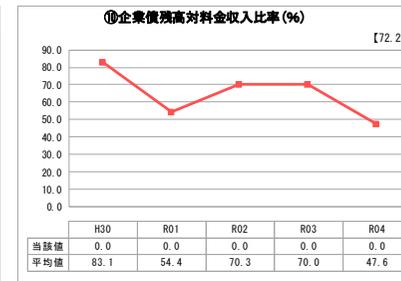


⑧敷地の地価(千円)

162,679

⑨設備投資見込額(千円)

3,564



分析欄

1. 収益等の状況について
 収益的収支比率は、平成28年度までは50%程度で推移していたが、地方債の償還が完了したことに伴い、平成29年度以降は100%を大きく超える割合で推移している。
 類似施設と比較すると、施設の稼働率の低さに対して収益が比較的高いことから、売上高GOP率、EBITDAともに平均値を大きく上回っている。
 令和2年度には新型コロナ禍の影響により、収益が減少したが、現在は徐々に回復している。

2. 資産等の状況について
 広場式の駐車場であり、今後の設備投資についても規模の大きなものは計画しておらず、照明のLED化にかかる費用程度を見込んでいる。
 現在、企業債の残高は無く、今後も借入の予定は無い。

3. 利用の状況について
 観光地に隣接した駐車場であり、平日の利用客が少ないため稼働率は低めの水準で推移しているが、今後も安定した利用が見込まれる。
 新型コロナ禍による移動制限等の影響を受け、利用客数が大きく減少していたが、徐々に以前の状況に戻りつつある。

全体総括
 地方債の償還完了に伴い、平成29年度に単年度収支が黒字となった。
 新型コロナ禍の影響により利用者数は減少したものの、単年度収支は黒字のまま推移しており、実質収支についても令和6年度には黒字化することが見込まれている。
 なお、観光地に隣接した駐車場であり、観光施策と連携した整備・運営が必要であること、広場式の駐車場であり維持管理費が最小限となっていることから、民間への譲渡や民間活用には馴染まない。
 今後も黒字が継続することが見込まれるが、維持管理費が過大とならないよう抑制に努める。

経営比較分析表（令和4年度決算）

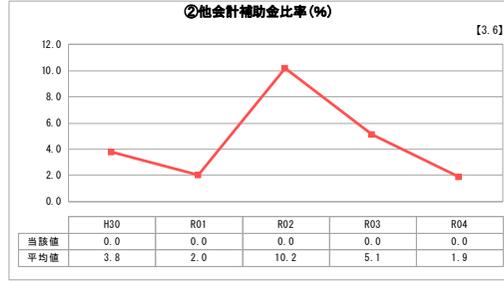
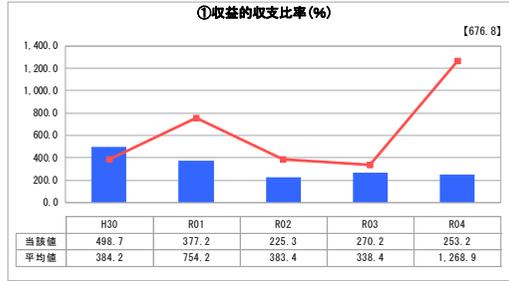
鳥取県境港市 大正町駐車場

業種名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A3B1	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	届出駐車場	広場式	16	

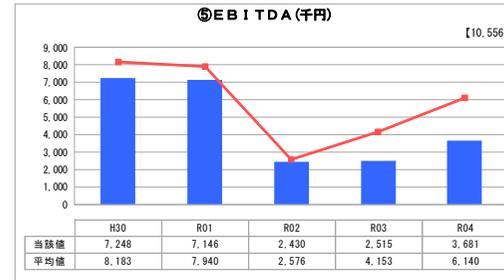
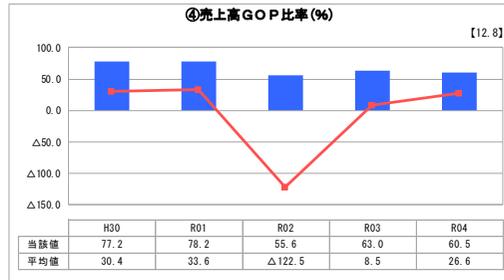
立地	周辺駐車場の供給実態調査	駐車場使用面積(m ²)
商業施設	無	2,315
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
58	200	無

グラフ凡例	
■	当該施設値(当該値)
—	類似施設平均値(平均値)
【	令和4年度全国平均

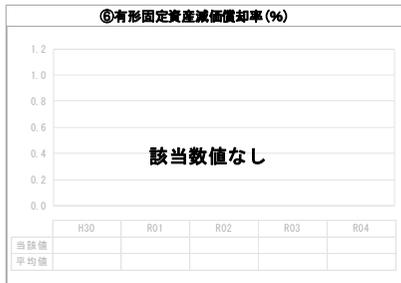
1. 収益等の状況



3. 利用の状況



2. 資産等の状況

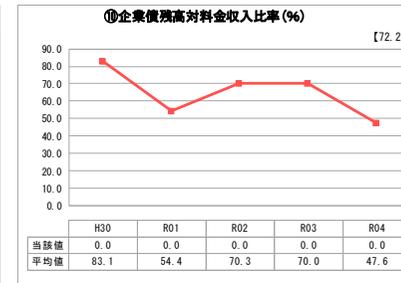
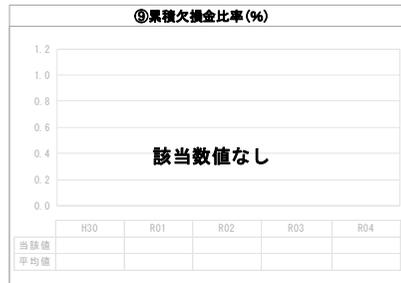


⑦敷地の地価(千円)

43,237

⑧設備投資見込額(千円)

2,772



分析欄

1. 収益等の状況について
 収益的収支比率は、平成28年度までは50%程度で推移していたが、地方債の償還が完了したことに伴い、平成29年度以降は100%を超える割合で推移している。
 類似施設と比較すると、施設の稼働率の低さに対して収益が高めであることから、売上高GOPは平均値を上回っている。
 令和2年度には新型コロナ禍の影響により、収益が大きく減少したが、現在は徐々に回復している。

2. 資産等の状況について
 広場式の駐車場であり、今後の設備投資についても規模の大きなものは計画しておらず、照明のLED化にかかる費用程度を見込んでいる。
 現在、企業債の残高は無く、今後も借入の予定は無い。

3. 利用の状況について
 観光地に隣接した駐車場であり、平日の利用客が少ないため稼働率は低めの水準で推移しているが、今後も安定した利用が見込まれる。
 新型コロナ禍による移動制限等の影響を受け、利用客数が大きく減少していたが、徐々に以前の状況に戻りつつある。

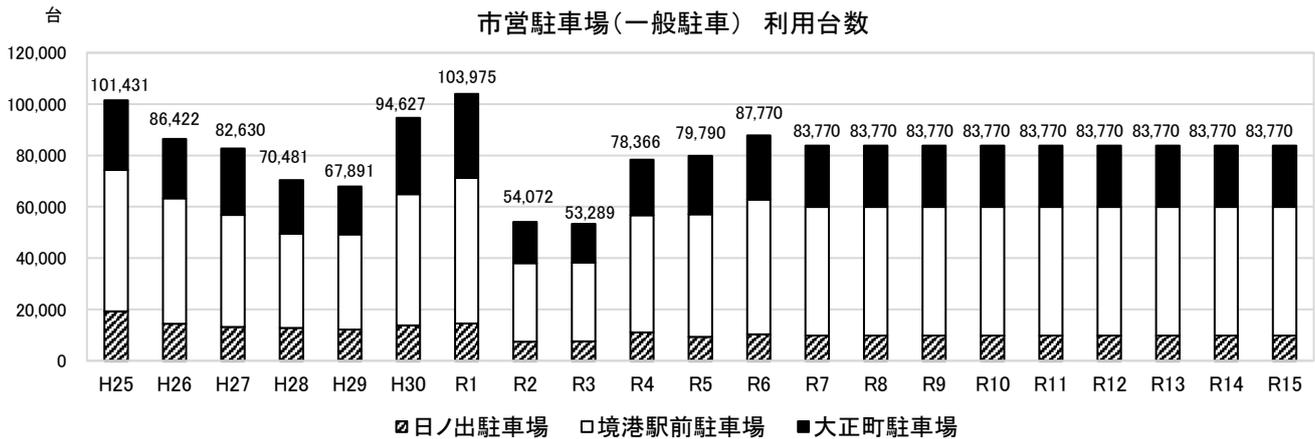
全体総括
 地方債の償還完了に伴い、平成29年度に単年度収支が黒字となった。
 新型コロナ禍の影響により利用者数は減少したものの、単年度収支は黒字のまま推移しており、実質収支についても令和6年度には黒字化することが見込まれている。
 なお、観光地に隣接した駐車場であり、観光施策と連携した整備・運営が必要であること、広場式の駐車場であり維持管理費が最小限となっていることから、民間への譲渡や民間活用には馴染まない。
 今後も黒字が継続することが見込まれるが、維持管理費が過大とならないよう抑制に努める。

2. 将来の事業環境

(1) 駐車場需要の見通し

一般駐車については、いずれの駐車場も近隣観光施設（水木しげるロード）の利用客が大部分を占めており、駐車場の需要は観光需要と連動したものとなっている。観光客の誘致に向けた取り組みは継続的に実施されており、今後も安定した駐車場の需要が見込まれる。

定期駐車については、隠岐の島と本土を結ぶフェリーの発着場に近接しており、定期的なフェリー利用者を中心とした需要により、概ね満杯の状態が継続しており、今後も利用率が高いままで推移していくことが見込まれる。

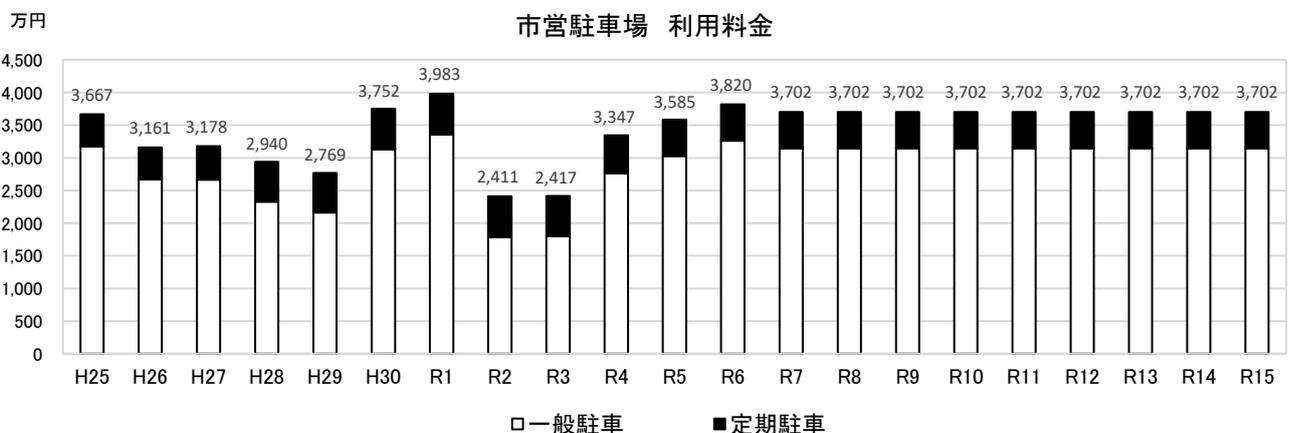


	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7以降
日ノ出	19,258	14,369	13,155	12,840	12,213	13,811	14,474	7,406	7,589	11,087	9,310	10,230	9,770
境港駅前	55,080	48,894	43,688	36,617	37,069	51,080	56,729	30,593	30,658	45,624	47,800	52,580	50,190
大正町	27,093	23,159	25,787	20,961	18,609	29,736	32,772	16,073	15,042	21,655	22,680	24,950	23,810
合計	101,431	86,422	82,630	70,418	67,891	94,627	103,975	54,072	53,289	78,366	79,790	87,760	83,770

(2) 料金収入の見通し

一般駐車については、新型コロナ禍による観光需要の落ち込みに伴って、料金収入が6割程度まで減少していたが、令和4年度には8～9割程度の水準まで回復した。さらに令和6年度には観光施設（水木しげる記念館）のリニューアルオープンも予定されており、今後も安定した料金収入が見込まれる。

定期駐車については、新型コロナ禍による影響も無く、定期的なフェリー利用者からの高い需要が継続していることから、料金収入についても高い水準で推移していくことが見込まれている。



	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7以降
一般駐車	31,740,700	26,700,760	26,657,090	23,274,941	21,642,220	31,292,350	33,550,840	17,843,710	18,028,480	27,619,700	30,279,000	32,633,000	31,456,000
定期駐車	4,932,000	4,908,000	5,120,000	6,128,000	6,044,000	6,228,000	6,280,000	6,264,000	6,140,000	5,848,000	5,568,000	5,568,000	5,568,000
合計	36,672,700	31,608,760	31,777,090	29,402,941	27,686,220	37,520,350	39,830,840	24,107,710	24,168,480	33,467,700	35,847,000	38,201,000	37,024,000

(3) 施設の見通し

市営駐車場はすべてが広場式の駐車場であり、定期的な更新が必要な設備は、発券機や精算機などのパーキングシステムや、照明器具程度となっている。

パーキングシステムの更新に当たっては、耐用年数にとらわれず、機器の状態等を勘案して10年を超えるサイクルで更新を行っており、今後も機器の適正なメンテナンスによる長寿命化を図りながら、同程度のサイクルで更新を行う。

駐車場内の照明については、電気使用料の軽減を図るため、令和6年度に全ての水銀灯をLED灯に改修する予定としている。

その他、フェンスや駐車枠線、舗装などについて、適宜、破損・劣化の状況を把握しながら、適切なタイミングで修繕を行う。

現在、未導入のEV充電器、電子決済については、ニーズ把握のほか、導入経費や運用・更新にかかる費用、経営への影響などを考慮しながら、導入の必要性についての検討を進める。

施設更新計画

内 訳		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	備考		
日ノ出	パーキングシステム更新（一般）	更新												更新										リース	
	パーキングシステム更新（定期）													更新											
	照明改修（LED化）												改修												
境港駅前	パーキングシステム更新（一般）							更新																	リース
	パーキングシステム更新（定期）							更新																	
	照明改修（LED化）												改修												
大正町	パーキングシステム更新（一般）							更新																	リース
	照明改修（LED化）												改修												

(4) 組織の見通し

自動精算機を使用した広場式の駐車場のため、施設の維持管理等に要する事務量は最小限であり、専任職員を配置せずに兼務職員のみで対応している。

日常的なパーキングシステムの保守・警備業務のほか、繁忙期における交通整理、積雪時の除雪作業については民間業者に委託しているが、今後も包括的な民間委託は行わず、現行の体制を維持することを基本とする。

3. 経営の基本方針

料金収入に対して維持管理に要する費用の割合が低く、計画期間内においても黒字の状態が継続することが見込まれている。

経営状況が非常に安定していることから、今後も現状の体制を維持することを原則としながら、定期的に経営状況等についての検証・見直しを行う。

計画期間内において、企業債の発行や一般会計からの繰り入れを伴うような大規模な設備投資の予定は無いが、観光地の駐車場としての利用が主体であることから、観光施設等の整備、更新等に合わせて、随時検討を行いながら、柔軟な見直しを行う。

令和6年度に累積赤字が解消される見込みであることから、一定額を突発的な施設整備等にかかる財源として確保したうえで、一般会計への繰出を行うことを検討する。

4. 投資・財政計画（収支計画）

(1) 投資・財政計画（収支計画）

（単位：千円、％）

区 分		年 度	前々年度 (決算)	前年度 (決算 見込)	本年度	令 和 7 年度	令 和 8 年度	令 和 9 年度	令 和 10 年度	令 和 11 年度	令 和 12 年度	令 和 13 年度	令 和 14 年度	令 和 15 年度
収益的 収支	収益的 収入	1 総 収 益 (A)	33,484	35,864	38,218	37,041	37,041	37,041	37,041	37,041	37,041	37,041	37,041	37,041
		(1) 営 業 収 益 (B)	33,484	35,864	38,218	37,041	37,041	37,041	37,041	37,041	37,041	37,041	37,041	37,041
		ア 料 金 収 入	33,467	35,847	38,201	37,024	37,024	37,024	37,024	37,024	37,024	37,024	37,024	37,024
		イ 受 託 工 事 収 入 (C)												
		ウ そ の 他	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
	(2) 営 業 外 収 益													
	ア 他 会 計 繰 入 金													
	イ そ の 他													
	2 総 費 用 (D)	9,430	10,516	10,089	9,657	9,281	9,021	9,021	9,021	9,021	9,441	9,861	9,638	9,532
	(1) 営 業 費 用	9,430	10,516	10,089	9,657	9,281	9,021	9,021	9,021	9,021	9,441	9,861	9,638	9,532
	ア 職 員 給 与 費													
	うち退職手当													
	イ そ の 他	9,430	10,516	10,089	9,657	9,281	9,021	9,021	9,021	9,021	9,441	9,861	9,638	9,532
	(2) 営 業 外 費 用													
ア 支 払 利 息														
うち一時借入金利息														
イ そ の 他														
3 収 支 差 引 (A)-(D) (E)		24,054	25,348	28,128	27,384	27,760	28,020	28,020	28,020	27,600	27,180	27,403	27,509	
資本的 収支	資本的 収入	1 資 本 的 収 入 (F)												
		(1) 地 方 債												
		うち資本平準化債												
		(2) 他 会 計 補 助 金												
		(3) 他 会 計 借 入 金												
		(4) 固 定 資 産 売 却 代 金												
		(5) 国 (都 道 府 県) 補 助 金												
	(6) 工 事 負 担 金													
	(7) そ の 他													
	2 資 本 的 支 出 (G)			17,040	27,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	27,000	26,946	28,000	
	(1) 建 設 改 良 費			3,040								1,946		
	うち職員給与費													
	(2) 地 方 債 償 還 金 (H)													
	(3) 他 会 計 長 期 借 入 金 返 還 金													
(4) 他 会 計 へ の 繰 出 金			14,000	27,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	27,000	25,000	28,000		
(5) そ の 他														
3 収 支 差 引 (F)-(G) (I)				△17,040	△27,000	△28,000	△28,000	△28,000	△28,000	△28,000	△27,000	△25,000	△28,000	
収 支 再 差 引 (E)+(I) (J)		24,054	25,348	11,088	384	△240	20	20	20	△400	180	457	△491	
積 立 金 (K)														
前年度からの繰越金 (L)				10,500	10,884	10,644	10,644	10,684	10,704	10,304	10,484	10,941		
前年度繰上充用金 (M)		49,990	25,936	588										
形 式 収 支 (J)-(K)+(L)-(M) (N)		△25,936	△588	10,500	10,884	10,644	10,644	10,684	10,704	10,304	10,484	10,941	10,450	
翌年度に繰り越すべき財源 (O)														
実 質 収 支 (P)	黒字			10,500	10,884	10,644	10,644	10,684	10,704	10,304	10,484	10,941	10,450	
	赤字 (Q)		25,936	588										
赤 字 比 率 ($\frac{(Q)}{(B)-(C)} \times 100$)		77	2											
収 益 的 収 支 比 率 ($\frac{(A)}{(D)+(H)} \times 100$)		355	341	379	384	399	411	411	411	392	376	384	389	
地方財政法施行令第16条第1項により算定した 資金不足額 (R)		49,990	25,936											
営 業 収 益 - 受 託 工 事 収 益 (B)-(C) (S)		33,467	35,864											
地方財政法による 資金不足の比率 ((R)/(S)×100)		149	72											
健全化法施行令第16条により算定した 資金不足額 (T)		49,990	25,936											
健全化法施行規則第6条に規定する 解消可能資金不足額 (U)														
健全化法施行令第17条により算定した 事業の規模 (V)		24,185	33,484											
健全化法第22条により算定した 資金不足比率 ((T)/(V)×100)		207	77											
他 会 計 借 入 金 残 高 (W)														
地 方 債 残 高 (X)														

○他会計繰入金

区 分		年 度	前々年度 (決算)	前年度 (決算 見込)	本年度	令 和 7 年度	令 和 8 年度	令 和 9 年度	令 和 10 年度	令 和 11 年度	令 和 12 年度	令 和 13 年度	令 和 14 年度	令 和 15 年度
収 益 的 収 支 分	うち基準内繰入金													
	うち基準外繰入金													
資 本 的 収 支 分	うち基準内繰入金													
	うち基準外繰入金													
合 計														

(2)投資・財政計画(収支計画)の策定に当たっての説明

①収支計画のうち投資についての説明

目 標	適正な保守点検及び整備により、設備の長寿命化を図るとともに、優先度を反映した計画的な設備の修繕・更新を実施する。 計画期間中の収益的収支比率は全体で300%以上を維持する。
-----	---

市営駐車場はすべてが広場式の駐車場であるため、大規模な修繕・改修等は生じない。
パーキングシステムの更新に当たっては、耐用年数にとらわれず、定期的な点検・整備を徹底し、機器の状態等を勘案しながら、10年を超えるサイクルで更新を行う。
一般駐車場のパーキングシステムの更新に当たっては、リース契約とする。
管理費の軽減を目的として、令和6年度に駐車場内の照明をLED化する。

②収支計画のうち財源についての説明

目 標	現状の料金水準を維持する。 計画期間中の他会計補助金比率は0%を維持する。
-----	--

一般駐車については、周辺の民間駐車場の経営を圧迫しないようバランスを取った料金設定としている。広場式の駐車場のため、設備の修繕・更新にかかる経費は最小限となっており、現状の料金設定でも安定した経営が可能となっていることから、当面の間、現状の料金設定を維持することとしているが、民間駐車場の料金の動向を把握し、随時、見直しの必要性について検討を行う。

令和6年度に観光施設がリニューアルオープンとなることから、観光客の増加に伴う料金収入の増加を見込んでいる。

計画期間中に大規模な設備投資を計画していないため、企業債発行、一般会計からの繰入等の予定はない。

③収支計画のうち投資以外の経費についての説明

施設の維持管理に係る委託料は、近年の実績ベースで推計した。

電気料金については、照明器具のLED化による削減を想定した。

人件費については、兼務職員で対応が可能であるため、駐車場費特別会計による負担は行わない。



大正町駐車場

(3)投資・財政計画(収支計画)の策定に当たっての説明

①今後の投資についての考え方・検討状況

民間活用	パーキングシステムの管理・警備業務、繁忙期の交通整理、除雪作業等の個別の民間委託については継続するが、包括的な委託については行わない。 観光地の駐車場としての計画的な整備や管理が必要であるため、民間への移譲等を行わない。
駐車場の配置の適正化	3か所ある市営駐車場は、いずれも観光地に近接した場所に立地しており、適正な配置となっている。
投資の平準化	設備の更新の緊急性、必要性について検証を行い、優先順位を定めて投資の平準化を図る。
その他の取組	一般駐車場のパーキングシステムについては、これまでと同様にリース契約により更新する。

②今後の財源についての考え方・検討状況

料金	当面は現状の料金を維持することを基本とするが、近隣の民間駐車場の動向を注視しながら料金の見直しについて検討を行う。
利用者増加に向けた取組	隣接する観光地の駐車場としての利用が大半を占め、利用者数の増減は観光客誘致と連動することから、観光部局との連携を強化する。
企業債	計画期間中に大規模な施設整備等の予定がないため、企業債の借入は行わない。
繰入金	平成28年度に企業債の返還が完了した後、実質収支は黒字で推移しており、令和6年度には累積赤字も解消する見込みであるなど、経営状況は安定していることから、他会計からの繰り入れは予定していない。
資産の有効活用による収入増加の取組	観光地の駐車場を確保する観点から、駐車場としての活用を継続することは必須である。 広場式の駐車場であり、維持管理にかかる費用が比較的少額であることにより利益が生じている面があるため、設備投資、維持管理費を極力抑えたいことで収入増加となり得る資産の活用方法についての検討を行う。
その他の取組	なし

③投資以外の経費についての考え方・検討状況

委託料	随時、業務内容を精査し、経費削減に努める。
管理運営費	随時、業務内容を精査し、経費削減に努める。
職員給与費	兼務職員のみであり、会計からの支出なし。
その他の取組	なし

5. 公営企業として実施する必要性など

<p>事業の意義、提供するサービス自体の必要性</p>	<p>市営駐車場は、いずれも県内有数の集客数を誇る観光地である「水木しげるロード」に近接した立地となっており、収容可能台数は民間を含めた周辺駐車場の約半数を占めるなど、観光客受入れの重要な役割を担っている。このため、単純な利益のみに左右されない、観光施策と連動した計画的な管理・運営が必要となっている。</p> <p>また、定期駐車区画については、離島と本土を結ぶフェリーの発着場に近接していることから、離島住民の生活手段としての駐車場の確保が必要となっている。</p>
<p>公営企業として実施する必要性</p>	<p>観光地利用者向けの利用が大部分を占めており、観光施策との連携を考慮した計画的、かつ利益のみに左右されない総合的な事業運営が必要とされることから、公営企業として実施することが適切である。</p>

6. 経営戦略の事後検証、改定等に関する事項

<p>経営戦略の事後検証 改定等に関する事項</p>	<p>定期的な設備機器の点検や改修診断調査を行うなど、構造物や設備機器の状態の把握に努め、必要に応じて経営計画の見直しを実施する。</p>
--------------------------------	---



日ノ出駐車場